

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第11週（3月9日～3月15日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 10ブロックで前週と比べ減少」

第11週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,612例であり、前週比3.3%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.22、1.98、0.73、0.29、0.21である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比1%減の961例で、中河内8.68、泉州7.60、北河内6.32、大阪市南部6.06、南河内5.80であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は7%減の365例で、泉州3.45、中河内3.00、大阪市東部2.33である。

RSウイルス感染症は3%減の134例で、北河内2.09、大阪市北部1.23、泉州0.85であった。

咽頭結膜熱は10%増の54例で、中河内0.58、大阪市北部0.54、南河内0.47である。

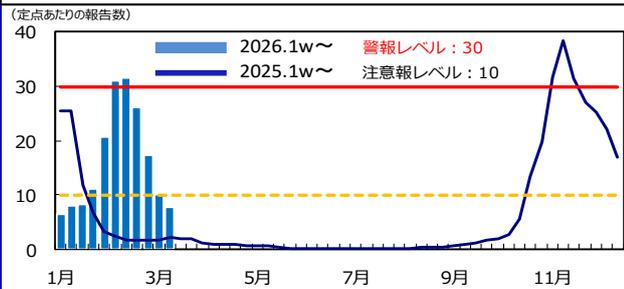
流行性角結膜炎は31%減の11例で、豊能0.60、北河内・大阪市南部0.50であった。

インフルエンザは21%減の2,286例で、定点あたり報告数は7.91である。南河内13.61、北河内11.70、中河内9.24、大阪市西部8.20、大阪市北部7.75であった。大阪府で警報レベルの終息基準値の目安となる定点あたり報告数10を下回った。

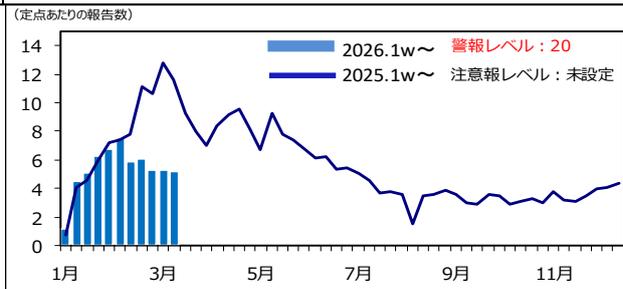
新型コロナウイルス感染症は6%増の144例、定点あたり報告数は0.50である。三島0.67、豊能0.62、大阪市東部0.60、北河内0.59、南河内0.57であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は3%減の10,866例、定点あたり報告数は37.60である。南河内55.17、北河内 47.22、中河内43.86、泉州41.55、堺市39.80であった。

インフルエンザ



感染性胃腸炎



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第11週3月9日～3月15日）

第11週の順位	第10週の順位	感染症	2026年第11週の定点あたり報告数	前週比増減	2025年第11週の定点あたり報告数	2026年第11週の年齢別患者発生数最大割合
1	1	感染性胃腸炎	5.22	1%減	11.59	10-14歳_16%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.98	7%減	1.36	10-14歳_17%
3	3	RSウイルス感染症	0.73	3%減	1.55	1歳未満_26%
4	6	咽頭結膜熱	0.29	10%増	0.19	1歳,2歳_17%
5	5	流行性角結膜炎	0.21	31%減	0.31	20歳以上_64%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	7.91	21%減	2.33	10-14歳_22%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.50	6%増	2.21	80歳以上_18%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	37.60	3%減	-	1-4歳_36%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（[定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報](#)）をご覧ください。

第11週のコメント

～麻しん～ 大阪府では、2026年第11週現在、11例が報告されている。

全数把握感染症

麻しん

麻しん（はしか）は麻しんウイルスによって引き起こされる発熱を伴う発しん性疾患で、感染すると高熱と結膜炎などの症状と、全身性の発しんが出現する。潜伏期間は1-2週間である。強い感染力（一人の患者が12～18人に感染伝播）のため、麻しん発生時には早期の診断と感染拡大に対する措置が重要となる。2015年3月、日本は麻しん排除国に認定されている。しかし、現在でもアジア、アフリカやヨーロッパ諸国で麻しんが流行している。症状（発熱、せき、鼻水、眼球結膜の充血、発しん等）があり、1）1か月以内に麻しん患者と接触していた場合、2）麻しん流行国（主にアジア及びアフリカ諸国）に最近の旅行歴がある場合、麻しんを疑い、感染拡大を防止するため、医療機関を早期に受診する。受診に際し、医療機関に事前連絡し、麻しん疑いを伝え、指示に従うことが重要である。麻しんはワクチン（1歳以上で2回）で予防可能な感染症であり、接種の徹底が予防や感染拡大の防止に重要である。

[麻しん【国立健康危機管理研究機構（旧 国立感染症研究所）】](#)
[麻しん情報（大阪府感染症情報センター）](#)

年別累積報告数（大阪府）

年	01	03	05	07	09	11	13	15	17	19	21	23	25	27	29	31	33	35	37	39	41	43	45	47	49	51
2022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2023	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2024	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2025	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2026	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 2. 大阪府全数報告数（2026年 第11週3月9日～3月15日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2							1	1	10
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	3				1			2		31
5類感染症	アメーバ赤痢	1		1							9
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1						23
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		1					1	2	65
	水痘（入院例）	1								1	9
	梅毒	14			1		1	1	1	10	217
	百日咳	4				1	1		1	1	95
	麻しん	2							1	1	11
結核 (2026年1月分)	結核 新登録患者数：89名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 30名) (府内累積報告数 89名、内 肺・喀痰塗抹陽性 30名)										

(2026年3月17日 集計分)